☒女權擴張（五巻）

帝キネ現代映畫

原作者　小畑隆一郎
監督者　大森勝
撮影者　和志田誠
主演者　小島洋々

〔役割及略筋省略〕

前作「亭主關白」よりは割合上品に出來上つた作品である。が其の製作意識の安易さに於て何等變りがない。纖篇の樣である。寅さん熊さん二夫婦が熊さんの家に子供が生れた爲めに女權擴張となり、寅さん一家は他に引越すんだが此の間の樣々なイキサツが頗る落語的で、不自然である。熊さんが公園で育兒法を子守を集めて講演してゐる場面は一寸味なものである。子に對する親の心理を或る點までユーモラスに見せては居るが、例の如く喜劇たらんとした爲に却つて茶番風な趣味に墮してゐる。もつと上品に、テーマ其のものに眞實性を持たせ、演出者も喜劇だからと云ふ意識なしに動かせるべきだつた。笑ひの爲めの笑ひは考へものだ。「附記」これと同名のハリーランドンものの洋劇がある。紛らはしいから斷つておく」

――水町　青磁――

興行價値――相當に面白い。都會では馬鹿にされる程度のものだが、地方館では大いに笑ひを誘ふ副映畫。

〔五月廿二日　大阪聲邊劇場、神戸相生座封切〕